県内4蔵元が参加

御酒印帳で飲み比べ楽しんで

全国各地にある日本酒の蔵元を巡り、ラベルを集める「御酒印帳」が注目を集めている。京都市の老舗紙卸商、柿本商事が企画したプロジェクトで、47都道府県の約200カ所が参加。本県からは浅間酒造（長野原町）、清水屋酒造（館林市）、永井酒造（川場村）、永井本家（沼田市）の4蔵元が名前を連ねる。日本酒の新たな楽しみ方の一つとして、消費拡大や新たなファン獲得への期待が高まっている。

御酒印帳の記入例。左にラベルを貼り、右に感想を書く（御酒印帳プロジェクト推進委員会提供）

公認蔵元やオンラインショップで購入した御酒印帳を持って蔵元を訪れ、登録銘柄の日本酒などを購入したり、有料の酒蔵見学をしたりすると、御酒印（ラベル）がもらえる仕組み。御酒印帳は左ページにラベルを貼り、右に味の感想などを記入できる。

これまでに京阪電車（京阪電気鉄道）とコラボレーションして沿線の酒蔵を巡るイベントや、エイチ・アイ・エス（HIS）とのオンライン酒蔵ツアーを実施。ゲーム会社とコラボしたスマートフォン向けゲームの開発も予定している。

さらに今夏、新たな公式ガイドブックを発売予定。本県の4蔵元を含む約140カ所の関連情報と御酒印を、東日本と西日本の2冊に分けて掲載する。

プロジェクトは低下する国内の紙需要の掘り起こしに向け、柿本商事が2017年11月に新規事業として始めた。スタート時の公認蔵元は50カ所だったが、専務の柿本遼平さん(36)を中心に郵送やメールで呼び掛け、徐々に拡大した。

浅間酒造は柿本専務の知り合いの県内飲食店から声を掛けられ、2月に参加した。登録銘柄は自社田で栽培した酒米を使い、完全地元産にこだわった「純米大吟醸　八ツ場の風」。桜井武社長(42)は「プロジェクトが日本酒を楽しむことにつながればいいと思う。プームではなく文化として根付く手伝いができれば」と話す。

2月に参加した清水屋酒造の登録銘柄は「SAKAEMASU（栄万寿）　50　2010」。熟成による品質向上を目指したビンテージ日本酒を醸造しており、同社総務部の成田千代さんは「御酒印帳はお酒に興味がある人と話すきっかけになる」と期待する。

柿本商事の柿本専務はプロジェクトについて「地域活性化の糸口となるような展開をしていきたい。御酒印帳を通してお酒の新しい楽しみ方を見つけてほしい」と呼び掛けている。（丸山仁見）

西置繭所にピアノ響く

世界遺産7周年記念コンサート

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界文化遺産登録7周年を記念したコンサートが4日、富岡市の富岡製糸場で開かれ、約6年の整備期間をかけて昨秋オープンした西置繭所内のガラス張りのホールに前橋市出身のピアニスト、菊池洋子さんの情感豊かな演奏が響き渡った＝写真。

同製糸場の建設を指導したフランス人技師、ポール・ブリュナと妻のエミリが持ち込んだと伝わるピアノと同型の1874(明治7)年製アップライトピアノなど2台が使われた。

菊池さんは作曲家のルフェビュールヴェリが、娘であるエミリへ贈った「昇天する霊魂」など、明治期に活躍した作曲家の楽曲を中心に21曲を演奏。約100人の聴衆は2台の音色をじっくり聴き比べていた。（北沢彩）

女
疑
ゆかりちゃん事件　7日で25年